

第 125 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
売買目的有価証券	前払金	仮払金	貸付金
支払手形	買掛金	当座借越	貸倒引当金
前受金	仮受金	所得税預り金	借入金
資本金	売上	受取手数料	有価証券売却益
受取利息	仕入	給料	租税公課
支払利息	有価証券売却損	手形売却損	損益

- 仕入先鳩山商店から商品 600,000 円を仕入れ、代金のうち 250,000 円については小沢商店振出し、谷垣商店受取りの約束手形を裏書譲渡し、200,000 円はかねてより売掛金のある得意先岡田商店を名宛人、鳩山商店を受取人とする為替手形（引受済）を振り出して支払い、残額は掛けとした。
- 営業用店舗の固定資産税 180,000 円と事業主の所得税 240,000 円を現金で納付した。
- 出張中の従業員から当座預金口座に振り込まれ、仮受金として処理していた 180,000 円は、得意先木村商店から注文を受けたさいに受領した手付金 50,000 円と、得意先篠原商店から回収した売掛代金 130,000 円であることが判明した。
- 損益勘定の記録によると当期の収益総額は 3,500,000 円で、費用総額は 4,200,000 円であった。この差額を資本金勘定へ振り替える。
- かねて売上代金の一部として受け取っていた得意先振出しの約束手形 350,000 円を取引銀行で割り引き、割引料 10,000 円を差し引かれた手取金をただちに当座預金口座に預け入れた。なお、当座借越勘定は 100,000 円の貸方残高となっている。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕入	600,000	受取手形	250,000
			売掛金	200,000
			買掛金	150,000
2	租税公課	180,000	現金	420,000
	資本金	240,000		
3	仮受金	180,000	前受金	50,000
			売掛金	130,000
4	資本金	700,000	損益	700,000
5	当座借越	100,000	受取手形	350,000
	当座預金	240,000		
	手形売却損	10,000		

・解説

1. 仕入取引に関する問題です。この問題は【裏書手形に関する仕訳】【為替手形に関する仕訳】【掛け仕入に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

・裏書手形に関する仕訳

問題文に「代金のうち 250,000 円については小沢商店振出し、谷垣商店受取りの約束手形を裏書譲渡」とありますから、当店が所有している受取手形を鳩山商店に譲渡する仕訳を切ることになります。

★解答①

(借) 仕入 250,000 / (貸) 受取手形 250,000

・為替手形に関する仕訳

問題文に「200,000 円はかねてより売掛金のある得意先岡田商店を名宛人、鳩山商店を受取人とする為替手形(引受済)を振り出して支払い」とありますので、為替手形を振り出したことが分かります。これに関しては得意先である岡田商店との間で以下の会話があったとイメージすると分かりやすいかもしれません。

当店・・・「どうも～。紀子様を「のりこさま」って発言した岡田社長はいますか～？」

得意先・・・「ぎくり！ど、ど、どうも。きよ、きよ、今日はどうしたんですか？」

当店・・・「そうそう、うちっておたくに対する売掛金ありましたよねえ」

得意先・・・「確かにあるけど、支払いはもうちょっと待ってくださいね」

当店・・・「あのさー・・・その売掛金使って仕入してもいいかなあ？」

得意先・・・「為替手形を振り出して仕入代金を払いたい、ということですか？」

当店・・・「そうなんですよ～。手形引き受けてくれます？」

得意先・・・「じゃあその手形を引き受けます。手形に判子押しておきますね」

当店・・・「ありがと～。これで仕入先の人に渡せるよ。手形分だけ売掛金減らしておくね」

得意先・・・「いえいえ。じゃあうちもお宅に対する買掛金を減らしておきます・・・やれやれ」

いかがでしょうか？為替手形の問題は当社の仕訳だけでなく、得意先や仕入先の仕訳も一緒に考えると分かりやすいと思います。なお、本問の三者の仕訳は以下のようになります。

★解答②（当店の仕訳）

（借）仕入 200,000 / （貸）売掛金 200,000

☆補足・得意先（岡田商店）の仕訳

（借）買掛金 200,000 / （貸）支払手形 200,000

☆補足・仕入先（鳩山商店）の仕訳

（借）受取手形 200,000 / （貸）売上 200,000

・掛け仕入に関する仕訳

残額の 150,000 円については、通常の掛け仕入ですから特に問題は無いと思います。

★解答③

（借）仕入 150,000 / （貸）買掛金 150,000

上記の①②③の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。本問はやや難易度の高い問題ですが、ひとつひとつ分解して考えれば十分正解にたどりつける問題です。

2. 資本の引き出しに関する問題です。本問は【営業用店舗の固定資産税】に関する部分と、【事業主の所得税】に関する部分とに分けて考えると分かりやすいと思います。

・営業用店舗の固定資産税

これに関しては租税公課勘定を使って処理するだけなので特に問題ないと思います。受験簿記では「営業用資産に係る固定資産税→租税公課で処理」と覚えておけばOKです（※事業主の資産に係る固定資産税を会社のお金で支払った場合は、資本の引き出しとして処理することになります）

★解答①

(借) 租税公課 180,000 / (貸) 現金 180,000

・事業主の所得税

事業主の所得税については店主の個人的な支出になりますので、資本の引き出しとして資本金勘定（または引出金勘定）を使って仕訳を切ることになります。

★解答②

(借) 資本金 240,000 / (貸) 現金 240,000

①②の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。なお、資本の引き出しに関しては、資本金勘定を使う場合と引出金勘定を使う場合の両方が考えられますが、本問は問題文で与えられている勘定科目の中に「引出金」勘定がありませんので、「資本金」勘定を使って仕訳を切ることになります。

ここで、引出金勘定で処理する場合と資本金勘定で処理する場合の両者の違いは、資本金勘定を使って**直接的に減らす**か引出金勘定を使って**間接的に減らす**かという点です。なお、間接的に減らした場合は、決算期末において、引出金勘定と資本金勘定を相殺する仕訳が必要になります。

■引出金勘定を使って処理する場合

☆支払時

(借) 引出金 240,000 / (貸) 現金 240,000

☆期末時

(借) 資本金 240,000 / (貸) 引出金 240,000

■資本金勘定を使って処理する場合

☆支払時

(借) 資本金 240,000 / (貸) 現金 240,000

☆期末時

仕訳なし

資本金・引出金に関する問題は第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

3. 仮受金・前受金に関する問題です。仮受金とは、入金の実事があるものの相手勘定や入金された理由などが不明な場合に、一時的に計上する勘定科目を言います。

本問は、問題文に「出張中の従業員から当座預金口座に振り込まれ、仮受金として処理していた 180,000 円」とありますので、内訳が判明する前に以下のような仕訳を切っていたことが分かります。

☆参考：既に切られている仕訳

(借) 当座預金 180,000 / (貸) 仮受金 180,000

そして今回の調査の結果、「得意先木村商店から注文を受けたさいに受領した手付金 50,000 円と、得意先篠原商店から回収した売掛代金 130,000 円」であることが判明しましたので、50,000 円の仮受金を前受金に振り替え、130,000 円の仮受金を売掛金と相殺する仕訳を切ることになります。

★解答：50,000 円の仮受金を前受金に振り替える仕訳

(借) 仮受金 50,000 / (貸) 前受金 50,000

★解答：130,000 円の仮受金を売掛金と相殺する仕訳

(借) 仮受金 130,000 / (貸) 売掛金 130,000

■仮受金と前受金の違いについて

- ・仮受金・・・何のためのお金か分からないまま（とりあえず仮に）受け取った場合に計上する勘定
- ・前受金・・・何のためのお金か分かっていて（取引の前に）受け取った場合に計上する勘定

仮受金と前受金についてはきちんと区別できるようにしておいてください。目的がはっきりしていない場合は仮受金で、目的がはっきりしている場合は前受金と考えることも出来ます。

仮受金と前受金に関する問題は、第 101 回の問 1や第 109 回の問 5、第 112 回の問 3、第 116 回の問 3、第 127 回の問 4などでも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

4. 損益の振り替えに関する問題です。本問は簿記一巡の流れをしっかりと理解していないと解けない問題ですので、この機会にもう一度流れを確認するようにしてください。

まず、問題文に「当期の収益総額は 3,500,000 円で、費用総額は 4,200,000 円であった」とありますので、収益・費用を損益勘定に振り替える仕訳を切ることになります。

☆参考：既に切られている仕訳

(借) 諸収益 3,500,000 / (貸) 損益 3,500,000

(借) 損益 4,200,000 / (貸) 諸費用 4,200,000

この結果、損益勘定が 700,000 円の借方残になりますので、当該 700,000 円を資本金勘定に振り替えることになります。つまり、商品売買を行った結果、**700,000 円の当期純損失** (3,500,000 円 - 4,200,000 円 = -700,000 円) が発生したので、当該金額分だけ資本金勘定の減少を認識することになります。

★解答

(借) 資本金 700,000 / (貸) 損益 700,000

損益の振り替えに関しては苦手にされる方が多い論点ですが、このように 1 つずつ考えていけば決して難易度の高いものではないことをご理解いただけたと思います。ただ、出題頻度を考えますと保険的な論点になりますので、理解が進まない場合は思い切って捨てるというのもアリだと思います。

損益の振り替えに関する問題は、第 105 回の問 5や第 107 回の問 5でも出題されています。

5. 当座取引に手形取引を絡ませた問題です。まず当座取引の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つが考えられますが、この分野は日商簿記検定 3 級の頻出論点ですので、どちらも必ず押さえるようにしてください。

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制の解答手順

当座を増加させるような取引（売上など）の場合は、まず当座借越勘定があるかチェックし、あればそれを相殺した上で残りを当座預金勘定に計上します。当座借越勘定がない場合は、全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（仕入など）の場合は、まず当座預金勘定があるかチェックし、あればそれを相殺した上で残りを当座借越勘定に計上します。当座預金勘定がない場合は、全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

■当座勘定のみを使う 1 勘定制の解答手順

当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って処理します。機械的に処理するだけですので 2 勘定制よりも簡単です。ちなみに・・・貸借対照表での表示に関してですが、当座勘定が借方残である場合は**当座預金**勘定、当座勘定が貸方残である場合は**短期借入金**勘定を使って表示することになります。借方残の場合は特に問題ないと思いますが、貸方残の場合は少し気をつけてください。

なお、2 勘定制によるか 1 勘定制によるかは、必ずしも問題文に明示されるものではなく、本試験では使用できる勘定群から判断することもありますので、実際に問題を解く際は勘定群をチェックする癖を付けるようにしてください。本問は、勘定群の中に「当座預金」「当座借越」勘定がありますので、2 勘定制を採用していると判断します。

☆参考：1 勘定制を採用した場合の仕訳

(借) 当座 340,000 / (貸) 受取手形 350,000
(借) 手形売却損 10,000

それでは当座取引の処理の確認をした上で、手形の割引きのほうに進みます。手形は満期日に決済されますが、満期日前であっても銀行に手形を持参して一定の手数料を支払うことにより、手形を現金化することが出来ます。

手形の割引日から満期日までの利息相当分は、**手形売却損勘定で費用処理**します。なお、利息の金額は問題文で与えられることが多いですが、自分で算定する必要がある場合は、問題の指示に従って日割計算（または月割計算）をしてください。

■仮に「手形代金が 100,000 円、割引日から満期日までの期間が 73 日、割引率が 5%」の場合

$$\boxed{100,000 \text{ 円} \times 5\% \times 73 \text{ 日} / 365 \text{ 日} = 1,000 \text{ 円}}$$

手形の割引きに関する問題は、第 109 回の問 4や第 119 回の問 1、第 128 回の問 1でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。同じような形式で繰り返し出題されています。